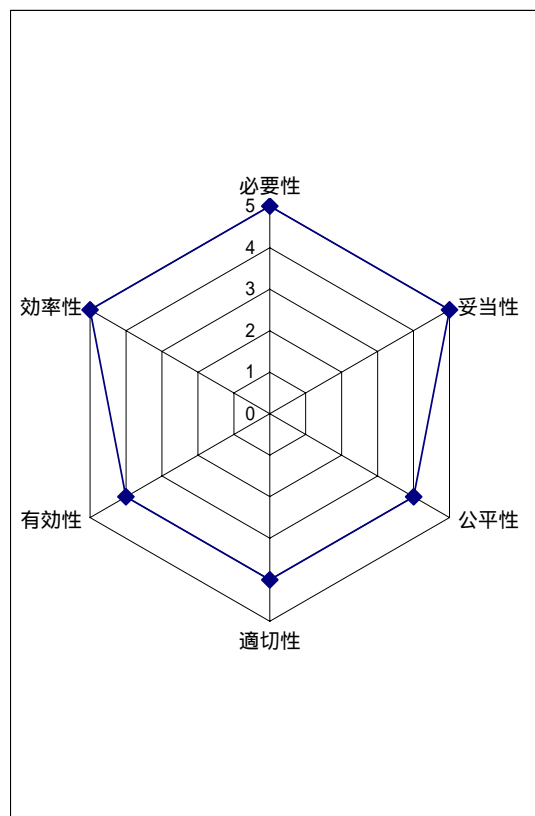


事務事業名	家庭教育支援事業	担当部局	教育委員会
基本目標	明日を拓く豊かな市民文化と人づくり(教育・文化)	担当課名	生涯学習課
施策体系	ともに学び、ふれあう家庭・地域教育		
施策	家庭の教育力を高める	担当係名	生涯学習係

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	家庭や地域の教育力を向上させるため、親としての学習や望ましい家庭づくりについての学習や親子・祖父母・世代間の交流の促進を図るとともに、体験学習を行う事業である。		
事業の期間(開始/終了)	99年 99月/	99年 99月	
根拠法令、条例、規則など			
事業が対象としている人(モノ)	幼児・児童・生徒をもつ親及び家族	児童・生徒・家族と小学校区内の住民	
具体的な活動内容	家庭教育学級の開設(幼稚園・小中学校)		
	子育て講座(国の委託事業)		
	親子体験教室		
	三世代交流事業(伝承遊び、創作活動、音楽発表等)		
事業の成果	家庭教育学級での学習により、家庭での子育てのあり方について情報交換ができた。		
	学級生同士のコミュニケーションがうまくいくことにより、子どもへの良い影響をもたらした。		
	家庭教育講演会に参加し、子育てのヒントや知恵、あるいは、家庭での親の在り方について学んだ。		
	普段不足している家庭・地域のコミュニケーションが広く図られた。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	5 ますます必要性は高くなっている 青少年の犯罪の低年齢化や不登校、いじめなど家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されている中で青少年の教育について関心を高め、家庭教育について見直す機会の提供は必要であり、家庭教育学級を展開することにより地域での交わりを大切にしながら、人や郷土を愛する心や社会道徳・奉仕活動・安全対策などについて繰り返し学習することは必要なことである。
	5 行政以外にはできない事業である 家庭教育学級の運営について事務局が担当しており、家庭や地域の教育力を高めるには、学校や地域との連携や協力が必要であり、行政が行うことが妥当である。
公平性	4 目的とした対象者に対しては、概ね広く便益を提供している 家庭教育学級については市内幼稚園・小学校・中学校において実施されている。16年度から民間の幼稚園にも学習会や講演会への参加を呼びかけている。また学級によっては地域の人に呼びかけて講演会への参加を募っている。
適切性	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない 事業手段は、適切である。特に家庭教育学級の運営については、各学級の運営委員会に委託し、事業の計画、活動の実施を行っている。
有効性	4 概ね目標水準に達している 家庭教育学級においては、年間計画に基づいて実施されており、学級生に家庭教育の重要性を学んでもらう、学習の場を提供することができた。 また、家庭教育講演会を実施したことにより、子育てに悩む保護者へ自分の子育てについて気づいたり・振り返る機会を提供することができた。
効率性	5 効率率は相当高められている(相当なコスト低減が図られている) 家庭教育学級における需用費・講師謝礼・使用料は必要である。また、充実した内容で事業を展開するためには委託料が少なすぎる。

総合評価	子どもをもつ親として、望ましい家庭づくりのための学習は家庭や地域ぐるみで青少年を育成するために必要な事業である。今後さらに学校や地域との連携を深め、子育てについて多くの親や祖父母が参加していけるような幅広い内容を検討し、参加意欲を高め、地域で青少年を育てる力となるようにしたい。
------	---

3. 今後の事業の方向性

所属 長 判断	事業の方向性判断	短期的方向	維持継続	中長期的方向	維持継続
	説明	家庭は人間形成の場として基本的な教育機能を持っているが、現在の少子化・核家族化という現状においては、特に、保護者の子育てに対する不安や悩みが多い事から、子育てについて、話せる仲間づくりや、三世代による事業を実施するなど、地域の交流を深めながら、子育てを実践するとともに、望ましい家庭づくりのため、引き続き本事業を進める。			
決定 権者 判断	決定内容	維持継続			
	説明	家庭教育は、人間形成のうえまた健全な心身の発達のため極めて重要である。現在行っている支援事業についてより効果が得られるよう工夫し事業を継続する。			